

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 2 部門第 7 区分  
 【発行日】平成 17 年 4 月 7 日 (2005.4.7)

【公開番号】特開 2000-281218 (P2000-281218A)  
 【公開日】平成 12 年 10 月 10 日 (2000.10.10)  
 【出願番号】特願 平 11-88654  
 【国際特許分類第 7 版】

B 6 5 G 53/66

B 6 5 G 53/04

F 1 7 D 3/14

【F I】

B 6 5 G 53/66 C

B 6 5 G 53/04 C

F 1 7 D 3/14

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 5 月 28 日 (2004.5.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ガス管の内部に滞留するドレンをシールポットへ排出する、ガス管からのドレン排出設備であって、ガス管に接続されるドレン排出管の他端がドレン排出ポンプの入側に接続され、該ドレン排出ポンプの吐出側がシールポット入側へと接続され、かつシールポット入側とガス管とがガス戻し管により連通されてなることを特徴とするガス管からのドレン排出設備。

【請求項 2】

ガス管の内部に滞留するドレンをシールポットへ排出する、ガス管からのドレン排出設備であって、ガス管の複数の位置にそれぞれ接続されたドレン排出管のそれぞれに排出バルブを介してヘッダ管が接続され、該ヘッダ管の下流側にドレン排出ポンプ入側が接続され、該ドレン排出ポンプの吐出側がシールポット入側へと接続され、かつ、該シールポット入側とガス管とがガス戻し管により接続されてなることを特徴とするガス管からのドレン排出設備。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

これら複数個のドレン排出管 2 をヘッダ管 12 に合流させヘッダ管 12 の下流側にドレン排出ポンプ 13 を設ける。ドレン排出ポンプの吐出側にドレン管 16 を介してシールポット 3 を設けドレン排出ポンプ 13 から吐出されるドレンをシールポット 3 へ送る。シールポット 3 の入側のドレン管 16 とガス配管 1 との間にはドレン排出ポンプからのドレンが逆流しないレベルにガス戻し管 15 を設ける。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 8

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 8 】

各々の機器機能を説明する。複数設けられたドレン排出口1aは、オリフィス10や流量調節弁11によりガス管1内のガス圧が場所によって異なるのでガス圧がほぼ等しい箇所みのドレン排出口のドレン排出バルブ8を開放しドレンを排出する。配管圧損や流量調節弁・オリフィス等によるガス圧力が異なる複数箇所の排出バルブ8を同時に開放するとヘッダ管12を介して高圧側から低圧側にドレンが流れてしまいドレンを排出することができない。ドレン排出ポンプ13により、シールポット3の入口レベルがガス管1のドレン排出口1aのレベルより高い、あるいは遠方にある場合でもドレン排出ができる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 符号の説明

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【符号の説明】

- |    |          |
|----|----------|
| 1  | ガス管      |
| 1a | ドレン排出口   |
| 2  | ドレン排出管   |
| 3  | シールポット   |
| 4  | オーバーフロー管 |
| 5  | ドレンピット   |
| 6  | ドレンタンク   |
| 7  | 水中ポンプ    |
| 8  | 排出バルブ    |
| 10 | オリフィス    |
| 11 | 流量調節弁    |
| 12 | ヘッダ管     |
| 13 | ドレン排出ポンプ |
| 14 | ホース      |
| 15 | ガス戻し管    |
| 16 | ドレン管     |
| 17 | 電動弁      |
| 18 | カップリング   |
| 19 | ドレン回収缶   |
| 20 | ピット      |